

ちの母体ともいうべき自連の回りにつ
 いて考えてみたい。私も自連社とは深い
 關係でもないりで、向違、た点があるか
 も知れないし、またそのような事があ
 っても許してもらいたい。
 南くところによると自由連合は40号を

も。ておられるとがわからない。う話が出てくる。筆者はその事についてこの面では一応ノコメントにしておきます。ただ、自連社をみて、自連紙の発行はある方面では回り道だったと思つたのです。それは、1号、34号の作業の確認をせずに自連女性にウソツキでミエツパリでイジワルで有り、常に男性をこまらせる者であつた。自由なる関係が深く静かに行進している現在、自連紙がわいておけるのも男である。こんな文章を書けば、ウーマン・リブの活動家になる事により、この関係が崩壊しないしあけられようであるが、戦争が初まれば、死ねるのは男で、女性には、未婚者の心配です。もし、崩壊したならば、自連は大きな回り道をしてきた事になるのではないと見えます。

多数意見 (少数意見を今回のみ改題)

機密さう洩事件、新聞を見ていけば、色々な意見を先生と呼ばれる方が述べておられる。諸意見なども、ともである。さすがに佐藤さんはエラカク、なて文章は一つもないので言うことなしである。でも一言だけ言つておきたい。自連女性にウソツキでミエツパリでイジワルで有り、常に男性をこまらせる者であつた。自由なる関係が深く静かに行進しているのも男である。こんな文章を書けば、ウーマン・リブの活動家になる事により、この関係が崩壊しないしあけられようであるが、戦争が初まれば、死ねるのは男で、女性には、未婚者の心配です。もし、崩壊したならば、自連は大きな回り道をしてきた事になるのではないと見えます。

破鎖定期読者へ

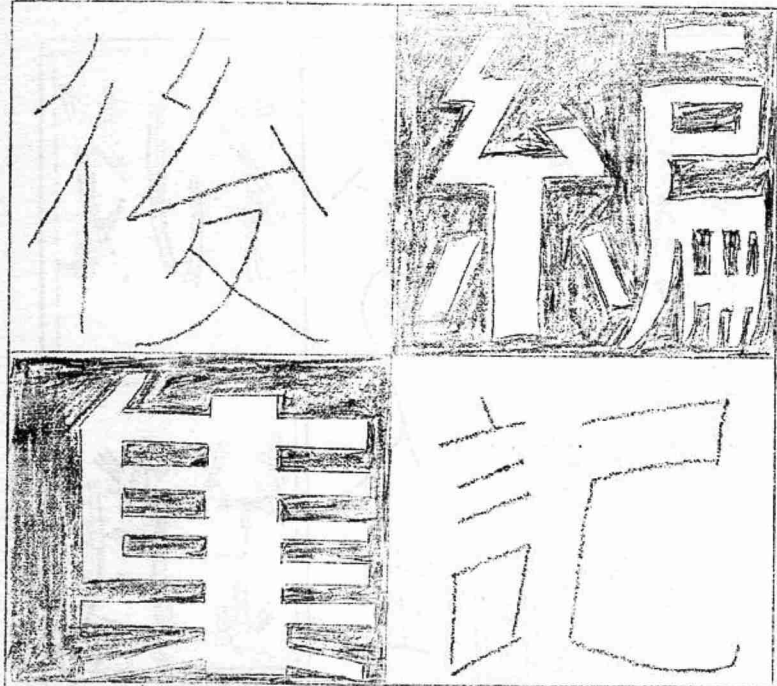
「自連」紙を媒介として

今まで、恥がしながらも、自身の事などを書いて、回り道について述べました。実は、私は回り道は大好きなものであります。トントン拍子にエッセイを組んだのに作つたもので、でかけ登って行った者が、とんでもない悪政をしてくれている今、回り道をして、スイモカライも甘いもかみわけた者(？)が必要なのではと老えます。自身のPRをするつもりではありませんが、回り道ばかりしてると、どんな場面に出会わしても、少々の事では動じないようになり、平氣に居直る。因太い男(？)になれた自信はあります。佐藤栄作さんのような因太い人はさうと困ります。生命が豊富になつたといふのは、いいじゃないでしょうか。この「破鎖」を読んだ下さった諸氏、丸太ハム(？)のCMじやないが、この現代に、たくましさといふものが必要かと思ひます。そのたくましさ(？)をどうやって着うかは、いろいろ方法があるでしょうが、回り道をして、いろいろ場面に出くわし、因太くなる(？)といふこともない。一つの方法だと考えます。自連社のメンバーをみて、つくづく思ふのです。(アメンネ) 正人

今回の「破鎖」はミニコミ紙、自由な交流を目指し、特リトコースなるものを、最短距離でかけ登って行った者が、とんでもない悪政をしてくれている今、回り道をして、スイモカライも甘いもかみわけた者(？)が必要なのではと老えます。自身のPRをするつもりではありませんが、回り道ばかりしてると、どんな場面に出会わしても、少々の事では動じないようになり、平氣に居直る。因太い男(？)になれた自信はあります。佐藤栄作さんのような因太い人はさうと困ります。生命が豊富になつたといふのは、いいじゃないでしょうか。この「破鎖」を読んだ下さった諸氏、丸太ハム(？)のCMじやないが、この現代に、たくましさといふものが必要かと思ひます。そのたくましさ(？)をどうやって着うかは、いろいろ方法があるでしょうが、回り道をして、いろいろ場面に出くわし、因太くなる(？)といふこともない。一つの方法だと考えます。自連社のメンバーをみて、つくづく思ふのです。(アメンネ) 正人

「破鎖」を讀まれた方へ
破鎖は簡単にいえば身内のミニコミです。だから、発行部数も20部前後とすくなく、読者もほとんどが筆者の友人です。特に高校の友人が主で、たまにしか会えない友人への手紙がかりに発行しています。今回、恥をしのんで、ミニコミ特集号に出しました。出来の悪いのは、かんべんのほど。前記のようなわけで、内容は、ほとんど、私のいろいろな事に對しての考えを述べた文章とふざけや冗談です。余白をうめています。もし、ミニコミでよかったら、左記に連絡下さい。送ります。ただし、紙代はタダです。切手代、一部20円はをこちらでお願いします。月233部を定期的に発行しています。なを、最初の連絡は、少し遅れるかも知れませんが、御承知のほどを、また、大きさはこれと同等のものです。

自由連合大阪 貸付 原正人



「破鎖」もついにニゲタになり、川大大阪市旭区高殿郵便局留
号となった。内容は初めての通り、平和進歩なしの後退のみ、また、筆者のガリ切りの技術もあまり向上してはいない、でも、悪びはない。それは私が「破鎖」を出版する事で、自己のエネルギーの蓄積量がわかったからである。もう、シンシヨと、約2年間、いろいろな事をやってきたが、この調子ならば、後一年位は、やはりシンシヨであり、記録を作つたというのではないが、長くやることで、革命的共産主義者同盟といふものではないが、長けりやい、僕が肩まで伸びた。PEACE AND LOVEであり、68年、69年にかけての学園戦争を闘った年代が、多分、多くは今、社会人となっていると思う。私は彼等が今、どうしているかは知らない、ただ、平々凡々として日常性に埋れている者(？)たら、私は憎む。なぜなら、私は私の影をそこに映し、5年後、10年後の私は、どうなっているであろうか。